

自民党 県会報告 第200号

12月県議会 定例会 会期 12月7日(火)～12月21日(火)

新型コロナウイルス感染症の収束に向け全力で取り組む

12月定例会は新型コロナウイルス感染防止対策として、演壇に飛沫を防ぐアクリル製のついたての設置や、換気の徹底などの対策を講じたうえで開会され、令和3年度一般会計補正予算や、県政当面の重要な案件について審議し、条例や意見書など63件を可決いたしました。

自民党議員会からは、代表質問1名、一般質問4名が登壇し、新型コロナウイルス感染症対策や復興と地方創生の取組についていたしました。

一般会計補正予算の主な内容については以下の通りです。



令和3年度12月補正予算 537億8,600万円

【主な内容】

■ **新型コロナウイルス感染症対策(171億6,404万円)**

- 感染拡大に備えた入院病床の確保(72億8,157万円)
- ワクチン・検査パッケージ活用等体制整備事業(35億円)
- ふくしま飲食店応援事業(プレミアム付き電子食事券の追加販売)(2億6,185万円)
- 観光周遊宿泊支援対策事業(県民割プラス)(15億4,580万円)

■ **原油価格高騰への対応(2億2,894万円)**

- 原油価格の高騰による灯油購入費用を支援する市町村に対する補助(1億5,425万円)
- 園芸農家や漁業者等への燃油価格高騰対策緊急支援事業(7,469万円)

自民党議員会が提出し可決した意見書

- 私学助成の充実強化等を求める意見書
- 新型コロナウイルス感染症拡大防止対策を求める意見書

代表質問 (令和3年12月9日)



自民党議員会を代表して、幹事長の西山尚利議員(福島市選出)が登壇し、代表質問を行いました。

◎ **県オリジナル品種等の優良種苗の安定供給にどのように取り組んでいくのか。**

▲ **内堀知事**

県産農産物のブランド化のため、県オリジナル品種の種苗を揺るぎない体制の下、安定的に供給していくことは、極めて重要な取組であり、知的財産の保護などを内容とする新たな条例の制定に着手することで、安定的に供給できるようしっかりと取り組んでいく。

◎ **原油価格高騰について事業者等への支援にどのように取り組んでいくのか。**

▲ **内堀知事**

中小企業者、農林漁業者向けの各種相談窓口を設置し、制度資金の活用促進を図るとともに、新たに生活困窮世帯の灯油購入費を助成する市町村への支援や、施設園芸、漁船などにおける燃油削減のための設備導入等への支援について検討を進めている。

◎ **ワクチン・検査パッケージ制度の検査体制の整備にどのように取り組んでいくのか。**

▲ **保健福祉部長**

県内各地にあり、県民に身近な薬局において、検査ブースの設置や、接触機会を少なくして検体採取ができるドライブスルー方式による検査を検討している。

◎ **県産品の輸出拡大にどのように取り組んでいくのか。**

▲ **観光交流局長**

初めてマレーシア向けに福島牛の輸出が実現したほか、先月末時点での県産米の輸出量が過去最高を更新し、現在アメリカにおいて、新規輸出に向けた関係企業との協議を進めているところであり、県産品の輸出拡大に全力で取り組んでいく。

「調査特別委員会」設置

12月定例会において、復興加速化・安全安心な県づくり等、県政の課題に取り組むため、新たに3つの調査特別委員会を設置しました。

◎委員長 ○副委員長

復興加速化・安全安心な県づくり特別委員会	○ 水野 透議員	高宮 光敏議員
	○ 満山 喜一議員	江花 圭司議員
	○ 吉田 栄光議員	山内 長議員
	○ 宮川 政夫議員	
県民健康・こどもの未来特別委員会	◎ 長尾トモ子議員	先崎 温容議員
	○ 佐藤 郁雄議員	佐々木 彰議員
	○ 太田 光秋議員	渡邊 哲也議員
産業再生・環境共生特別委員会	◎ 遊佐 久男議員	佐藤 憲保議員
	○ 山口 信雄議員	星 公正議員
	○ 青木 稔議員	佐藤 義憲議員

県議会臨時会 11月29日(月)

11月臨時会は、県職員のボーナスに当たる期末・勤勉手当を0.15ヵ月分引き下げ、12月支給の議員期末手当を0.10ヵ月分引き下げる条例改正案など6件を可決いたしました。

自民党議員会の活動

予算獲得へ向け要望聴取会を開催

自民党議員会は12月4日(土)、令和4年度の政府予算対策要望活動の一環として、支援友好団体からの要望聴取会を開催しました。

例年は、各団体の方々と上京し、党本部役員や関係各省庁に対して要望しておりましたが、新型コロナウイルス感染症の影響を考慮し、各団体の要望を拝聴し、後日、党本部および関係各省庁に要望するという形式で実施しました。

当日は、県選出国會議員、県議会議員が2班に分かれ、計32団体から来年度予算確保に関する要望を拝聴しました。各団体から頂いた要望は、党本部および関係各省庁に対して、しっかりと要望してまいります。

自民党議員会は、今後とも、各団体皆様のご要望が実現できるよう努力してまいります。



福島県議会議員 渡辺康平 県政レポート

令和4年 新春号

【第8号】



令和4年 厳冬を超えて新たな春へ

皆様におかれましては、輝かしい新春をお迎えになられたことと心よりお慶び申し上げます。

昨年を振り返ると8月には新型コロナウイルスのデルタ株による第5波が猛威を振るう中で、緊急事態宣言とまん延防止措置により、先行きが不透明な状況が続きました。その後、ワクチン接種が進み、抗体カクテル療法による治療薬が承認され、9月以降は新たな感染者が減少する等、穏やかな年始を迎えることが出来たと感じています。

オミクロン株については、いまだに未確定な部分が多く、今回の県政レポートでは記載していませんが第6波に備えるため、自民党会派として福島県に対し医療体制の強化を要望してきました。昨年12月議会には新型コロナウイルス感染症対策を含む537億8,600万円の補正予算を可決しています。感染拡大に備えた入院病床の確保をさらに進めるための予算が成立しました。今後も新型コロナウイルス感染症対策に全力で取り組んでまいります。

感染症対策と同時に経済対策も重要です。日本経済は7～9月期の国内総生産(GDP)がマイナス成長を続けており、県内経済についても厳しい状況が続いています。

これまで、感染拡大防止に配慮しながら、地域経済の活性化を促進するため、様々な県内の経済指標を踏まえつつ、効果的な経済対策に取り組むよう、県議会において提言して参りました。今後、県議会の商労文教委員会の委員として、感染症により傷ついた県内経済をいかに回復させていくか、政策提言を実施していきます。

令和4年の干支は「壬寅」です。「壬」は厳冬や静謐、「寅」は春の胎動を意味しています。「壬寅」とは冬が厳しいほど、春の芽吹きは生命力に溢れ、華々しく生まれることを表しています。

新型コロナウイルス感染症という厳冬を超えて、今年は新たな春の芽吹きが迎えられることを強く祈り、年頭のご挨拶とさせていただきます。

渡辺こうへい への連絡先

連合後援会事務所 〒962-0013 須賀川市岡東町141
TEL 0248-94-5380 FAX 0248-94-5382

令和3年の活動報告

※活動の一部を抜粋してご報告します

1月



須賀川市陣場町から岡東町に事務所を移転

2月



福島県沖地震の対応で地域の被災状況を調査。県に対して必要な措置を要望。

3月



県議会定例会にて一般質問を実施。令和元年東日本台風における釈迦堂川の整備などについて問う。

7月



県議会定例会が開かれ福祉公安委員会に出席。新型コロナウイルス感染症のワクチン接種について保健福祉部に質問を行う。

6月



降ひょうにより農作物に被害が発生。霜被害と同様に現地調査後、県に要望を実施。

4月～5月



大規模な凍霜害により桃や梨などの果樹に被害が発生。被害状況を調査後、県に要望を実施。

8月



須賀川市下小山田区内の取上川が7月末の豪雨で氾濫したため、県、地元住民と共に現地調査を実施。河川改修を要望。

11月



労働福祉会館にて県政報告会を開催。県議として2年間の活動を報告。

12月



県議会定例会が開かれ商労文教委員会に出席。商工労働部と教育庁に対して質疑を実施。

9月



県議会定例会にて一般質問を実施。経済対策や風評・風化対策などを知事に問う。

10月



須賀川市下小山田区、小作田区にて県政報告会を開催。



須賀川市向陽町にて県政報告会を開催。